

令和2年度 都立学校・学校経営シート

 都立新宿高等学校	全日課程		進路	実績	4年制 大学	84%	短期 大学	0%	専 門 校	0%	就職	0%	その他	16%					
	『進学指導特別推進校』: 伸びる学力・進学実績 (進路・学習・生活指導を一体化した『新宿システム』の実施)																		
基 本 情 報	所在地	〒160-0014 新宿区内藤町11番地4		電話 番号	03-3354-7411														
	アクセス	(1) JR新宿駅下車徒歩4分、東京メトロ、都営地下鉄、新宿駅下車徒歩7分 (2) 東京メトロ副都心線新宿三丁目駅下車徒歩2分、都営地下鉄新宿線新宿三丁目駅下車徒歩4分 (3) 京王線 新宿駅下車徒歩10分 西武新宿線 西武新宿駅下車徒歩11分																	
本 情 報	学 科	普通科																	
在 生 徒 数	普通科	955人(男子451人、女子504人)?																	
教育 課程 の 特 徴	単位制、50分6時間(火・水曜、7時間)授業、土曜授業年間18回、きめ細かな習熟度別授業(英語、古典、数学、化学)実施と多様な選択科目設定																		
ホーム ページ	http://www.shinjuku-h.metro.tokyo.jp		自律経営推進予算 02年度(単位:万円)	2,482															
そ の 他	平成19年度～『進学指導特別推進校』	校 服	標準服	男子: 詰襟(黒) 女子: プレザ(紺)															
基 本 情 報	進 路 特 徴	現役合格・国公立大学等91名、難関国立4大等16名(東京・京大・一橋・東工・医大)、早稲田慶應86名																	
基 本 情 報	主 な 部 活 動	陸上競技部、硬式野球部、サッカー部、バドミントン部、チアリーディング部、ダンス部、ESS																	
基 本 情 報	学 校 評 価	保護者の本校への満足度: 全体88.0%、学習71.5%、進路80.8%																	
基 本 情 報	入 学 者 選 抜 情 報	募 集 人 員	推薦: 男女32人、学力: 男女284人																
基 本 情 報	入 学 者 選 抜 情 報	30 年 度 入 学 生	推 薦	男 子		女 子		31 年 度 入 学 生	推 薦	男 子		女 子		02 年 度 入 学 生	推 薦	男 子		女 子	
基 本 情 報	入 学 者 選 抜 情 報	学 力 検 査	男 子	6.16	女 子	5.03	男 子	5.41	女 子	2.31	男 子	2.03	女 子	2.03					
基 本 情 報	入 学 者 選 抜 情 報	そ の 他 の 特 徴	国・数・英は自校作成の入試問題で実施。推薦選抜では「小論文」を実施。																
基 本 情 報	入 学 者 選 抜 情 報	主 な 学 校 行 事	1年生全員参加の臨海教室(千葉県館山)、戸山高校との部活動対抗戦、朝陽祭																

目指す学校 教育目標「全員 指導者たれ」「自主・自律・人間尊重」を達成するため①～④の学校を目指す。①生徒の学力を最大限に伸ばし生涯学び続ける力を育成する学校、②次代を担うたくましいリーダーを育てる学校、③すべての生徒が希望する進路を実現できる学校、④生徒・保護者・都民から信頼され、地域に貢献する学校。

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目 標 ①	進路実現は『補欠なき団体戦』『チーム新宿』 ①定観測(模試結果分析、対策)、「目線あわせ」(8人の担任で320人の生徒を観る)などによる生徒の進路希望実現 ②読書活動推進、探究活動による読解力、論理的思考力育成 ③年間1700時間以上の講習等、放課後自習室など、学習支援の充実	①実施できた実力テストについては、1・2年次の定観測と3年次の「目線あわせ」等を実施した。教科の結果分析を充実させ、授業と実力テストとの連携した指導が進んだ。 ②新書を紹介する「新書を読む」の内容を更新するなどして、生徒の知的好奇心を増進した。2年連続してビブリオバトル都大会上位入賞を果たした。「総合的な探究の時間」では地域課題解決への探究活動を行った。 ③講習・補習は臨時休業や時差登校などで指導期間・時間が限られ年間1500時間に留まった。自習室も後期から3年次向け開室に留めざるを得なかった。	
目 標 ②	入学時の学力を伸ばす学習指導 ①教員の授業力向上と大学入試に向けた実践的指導力の育成、次期学習指導要領を見据えた授業改善の推進 ②「単位制」の活用(本格的習熟度・発展・応用科目) ③小テスト、宿題、週末課題等による「学習サイクル」(予習→授業→復習)の確立と自学自習などへの主体的に学習する態度の育成	①相互授業参観週間は設けたが、臨時休業等で計画通りの実施は出来なかった。管理職の指導と教科内研修による次期カリキュラム研究、模擬試験・入試問題分析により授業改善を進めた。 ②継続して全学年の習熟度別授業を英、数、国及び理(化)の一部で実施し、自由選択科目を多数設定した。 ③コロナ禍に対応して、臨時休業では学習支援クラウドサービスを活用した課題提示、オンデマンド授業動画配信などを行い、機器整備、校内研修による準備を進めて2月から全ての授業をオンラインで実施した。今後に向けては、効果的なオンライン授業での指導法の開発が課題となる。	
目 標 ③	『自律的生活習慣』『文武両道』は本校教育活動の基礎 ①挨拶励行、時間厳守、身だしなみ指導(頭髪等)、清掃指導、ルールを守る等の重点指導 ②学習と部活動の両立のための「集中と切り替え」の徹底などによる「文武両道」の実践 ③生徒の心と体のケアへの適切な対応の推進	①コロナ対策の時差登校に応じて、登校指導を一層徹底し遅刻人数がさらに減少した。学習時間、始業時刻を意識する生徒が増え、清掃活動もコロナ感染対策に沿った学習環境が整えられた。 ②コロナ禍に対応して、合宿中止、活動禁止期間などで感染防止に努めた部活動を実施し、学年集会、HR(オンライン実施有)などで確実な家庭学習時間の確保を指導して、学年集団のモラル向上に努めた。 ③教育相談連絡会などを年度後半に集中開催して、積極的な教員・SC等の情報交換から時節に沿ったコロナ禍による諸課題に対応した的確な個別生徒への指導が実践できた。	

数 値 目 標	今年度の数値目標の内容	29年度		30年度		31年度		今年度		03年度	04年度	05年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	難関大学現役合格者数・国公立大等100名以上・早慶大80名以上(過年度・目標は当時関連目標値)	100,80	79,65	100,80	87,59	100,80	91,86	100,80	98,88	100,80	100,80	100,80
目標②	国立難関大学(東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科)現役合格者数15名以上(過年度・目標は当時関連目標値)	15	7	15	10	15	16	15	9	15	15	15
目標③	年間遅刻回数の減少(年間平均1日1学級1人未満を下回る)(過年度・目標は当時関連目標値)	1人未満	0.8人	1人未満	0.7人	1人未満	0.7人	1人未満	0.5人	1人未満	1人未満	1人未満

名

10年間の進学実績推移(現・浪合計)

